

新 品 種 の 特 性

作物名	飼料用 とうもろこし	系統名	AX-152	育成場	畜産試験場 (民間種苗業者との共同育成)
【品種特性の概要】					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>○雌穂や茎が紫色の飼料用とうもろこし^{※1}。 紫色の飼料用とうもろこしの品種登録出願は国内初。</p> <p>○アントシアニン^{※2}を、黄色の対照品種よりも多く含む。</p> <p>○草丈が3mを超える大型で、収量性が良い。</p> <p>○極早生で、高冷地でも栽培できる。</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>※1：飼料用とうもろこし 家畜の飼料とする「とうもろこし」。国内では、実・茎・葉の全部を細断し、乳酸発酵させたサイレージとして、牛に給与している。</p> <p>※2：アントシアニン 植物に含まれる青～紫色の色素。機能性成分として研究されている。</p> <p>※3：相対熟度 (RM) は種から収穫までに要する期間の目安となるもの。数字が小さいほど早生で、収穫までの期間が短く、高冷地でも栽培が可能。</p> </div> </div>					
【対照品種との比較】					
系統名	AX-152	対照品種	比 較		
アントシアニン含量 (mg/gDM)	1.17	0.02	50 倍多い		
草丈 (cm)	342	278	20%長い		
乾物収量 (kg/10a)	2245	2141	5 %多収		
相対熟度 (RM) ^{※3}	極早生(108)	極早生(106)	ほぼ同熟期の極早生		
※ 対照品種は、ほぼ同熟期の雌穂が黄色い市販品種。					

*系統名「AX-152」は、アントシアニン (A) 含有系統を片親として交配 (X・クロス) した組合せのうち、152 番目のものであることに由来。



「AX-152」 草姿



「AX-152」の雌穂 (右は対照品種)